

2023・10

柏の景気情報

令和5（2023）年10月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年10月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

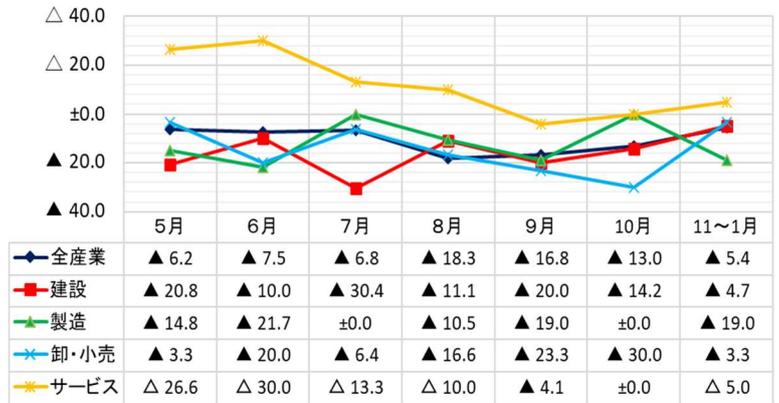
回答期間: 令和5年10月23日～令和5年11月5日 調査対象: 柏市内178業所及び組合にヒアリング、回答数92

各業種の業況はまだら模様。価格転嫁への協議が難航気味の製造業、個人消費の拡大に期待する卸小売業

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.0(前月水準▲16.8)となりマイナス幅が3.8ポイント縮小した。

卸小売やサービス業では、平年より気温が高いため秋冬商品の売れ行きが伸び悩み、物価高による消費者の買い控えが継続している。建設業では、人手不足+最低賃金の引き上げにより、スキルが不十分の人材を雇用せざるを得ない、受注を断るといった悩みの声も聞かれた。製造業は、価格転嫁の交渉中にも原材料やエネルギー価格がさらに高騰する状況が続いているため、価格転嫁が追い付かないといった声が目立った。

柏の景気情報・産業別業況DI



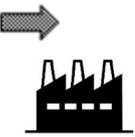
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「長年勤務していたベテラン社員が定年退職したため、さらに人手不足になり今後非常に厳しくなりそう」(塗装工事)「中東情勢の緊迫化により、今後ますますトラックや重機等の燃料代が高騰する可能性もあると思う」(管工事)「受注件数は微増してきたが、人手不足のうえ指定される納期も短く、対応が出来ず断るケースも出てきている」(電気設備工事)「材料仕入の先行する支出が多く、資金繰りが課題」(リフォーム)



製造業

「コロナウイルスの影響で客先との打ち合わせが出来なくなり止まっていた設備投資の話が最近では順調に進んでいる。ただし非常に納期のかかる部品があり、完成・納入が遅れる装置が発生している」(一般機械・装置製造)「受注減が続いており利益確保のため仕入を抑えることが必須である。社内での技術継承は会社が存続していくうえで重要、真摯に取り組んでいかねばならない」(金属製品)「標準価格がない自社製品の値上げ・価格転嫁が難しく、材料費やエネルギー価格の変動により原価計算も難しい」(自動車付属品製造)



卸・小売業

「インバウンドが若干増加の傾向が見られてきている。食品については価格高騰の影響を受け、目玉商品に対して敏感な動きがある。気温が昨年より高い状況が続いているため、衣料品・寝具は秋冬商品の動きが悪い」(大型小売店)「これから冬の仕入れシーズンになるが食材の原料が取れるのか、供給量や価格は安定するのかさっぱり分からず不明の部分が多い。今年はあまりに原料が高すぎたので海外からの輸入に頼ったが、また同じことになる可能性もある」(食料卸売)「嗜好品であるケーキは、価格高騰による買い控えの影響が大きい。クリスマスを控え、乳製品の再値上げが痛い」(洋菓子製造・販売)



サービス業

「為替の影響やコロナ禍後の外出増加で、EC事業が伸び悩む状況の中、消費者向けの運送会社(ヤマト運輸や佐川急便等)の運賃の値上げにより更にECの売上が落ち込んでいると感じる。来年より柏市内のみの配達(お買い物代行等)を行う方向で協力会社と話しを進めおり、Uber Eatsのようなもの(食品・飲料だけでなく何でも)を提供してみようと考えている」(梱包)「再生可能エネルギー問題への対応や企業業績の好転に伴う地質調査などで好況傾向が予想される」(地質調査・地質コンサルタント)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲13.0に対し、「CCI-LOBO」が▲10.5で、柏のほうがマイナス幅が2.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はなし。製造業とサービス業は横ばい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.0	 ▲ 14.2	 ± 0.0	 ▲ 30.0	 ± 0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.5	 ▲ 14.3	 ▲ 9.3	 ▲ 16.0	 ± 0.0
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.1	 ▲ 9.5	 4.7	 ▲ 10.0	 30.0
CCI-LOBO	 4.5	 ▲ 6.7	 7.1	 1.0	 16.8
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.7	 ▲ 14.2	 ± 0.0	 ▲ 23.3	 5.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.7	 ▲ 19.7	 ▲ 9.3	 ▲ 14.8	 ▲ 10.0
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 64.1	 ▲ 47.6	 ▲ 76.1	 ▲ 76.6	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 67.4	 ▲ 72.9	 ▲ 64.1	 ▲ 70.7	 ▲ 65.7
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.5	 23.8	 23.8	 10.0	 25.0
CCI-LOBO	 23.3	 35.4	 13.2	 20.9	 31.3
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.6	 ▲ 9.5	 ± 0.0	 ▲ 13.3	 ▲ 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.0	 ▲ 6.4	 ▲ 11.8	 ▲ 20.7	 ▲ 10.8

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測 (10月速報)

調査期間：2023年10月16日～20日

調査対象：全国の329商工会議所が2,478企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、物価高とコスト増の継続で悪化。先行きは、さらなるコスト増や人手不足等で厳しさを続く

10月の全産業合計の業況DIは、▲10.5と前月比から▲1.5ポイントの悪化。

小売業は、物価高で買い控えが続く中、人手不足に伴う人件費の増加等で悪化した。

サービス業は、物価高による生活関連サービスの需要停滞で横ばい圏内で留まり、卸売業は、小売・サービス業からの引き合い減少でほぼ横ばいとなった。製造業は、自動車関連が好調な一方、エネルギー価格の高騰によるコスト増が全体を押し下げ、建設業は、公共工事の受注増で改善を示すも力強さを欠いている。

エネルギー価格の高騰や最低賃金の上昇等でコスト

増が継続する中、これに見合った十分な価格転嫁が行えていない。また、深刻な人手不足に加え、インボイス制度等の諸課題への対応も重なり、中小企業の業況は悪化に転じた。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業は改善し、製造業、小売業、サービス業は悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

「仕入価格の上昇分についての価格転嫁に向けた取引先と協議を行っているが、人件費や電気代等の高騰分の交渉は厳しい状況である。加えて、競合他社において値上げの提示を行っていないケースも多く、業界全体での価格転嫁に向けた機運醸成を期待する」(一般工事業)

「工事案件は増加しているものの、指定工期が短く、人手不足で対応ができず、受

注できないケースも出てきている」(建築工事業)

【製造業】

「部品の供給制約の緩和で、受注は増加傾向。年度初めは原材料・エネルギー価格の高騰や労務費上昇が収益を圧迫し、かなり苦しい状況だったが、パートナーシップ構築宣言もあり、価格転嫁が進捗してきている」(輸送用機械器具製造業)

「半導体関連の需要の低下が著しく、向こう1年程度はこの状況が継続するとみている。売上の確保に向けた対策を検討する必要がある」(電子部品製造業)

【卸売業】

「中国経済の減速等で海外取引が減少するなか、中東情勢の緊迫化も重なり、今後の一層のコスト増による収益圧迫が懸念される」(一般機械器具卸売業)

「取引先の飲食店に対して、価格協議を行ったものの、先方からは長引く物価高で消

費者の買い控えが深刻な中、さらに販売価格を上げると一層の顧客離れにつながってしまうため、据え置きを希望されています。また、交渉が難航している」(食料・飲料卸売業)

【小売業】

「催事やイベントはコロナ前と同等程度に回復しており、明るい兆しはあるものの、長引く物価高で地元の消費者の買い控えが継続しており、売上が伸び悩んでいる。加えて、インボイス制度への対応に伴う事務作業の増加で、人件費が増え、収益を圧迫している」(総合スーパー)

「BtoB、BtoC双方の事業を行っているが、企業向けの価格転嫁よりも、買い控えが続いている消費者向けの価格設定に苦慮している」(菓子・パン小売業)

【サービス業】

「仕入単価の上昇や電気代の高騰等で経費は増え続けているものの、物価高の中で価格転嫁を行うと来客数が減少し

てしまうため、価格は据え置いたまま、付随サービスの提案などを行い、売上増加に努めている」(美容業)

「コロナ前の9割程度まで売上は回復したが、最低賃金の引上げに伴う人件費や電気代の高騰による負担増で、採算面での回復には至っていない」(宿泊業)

全国・産業別業況DIの推移

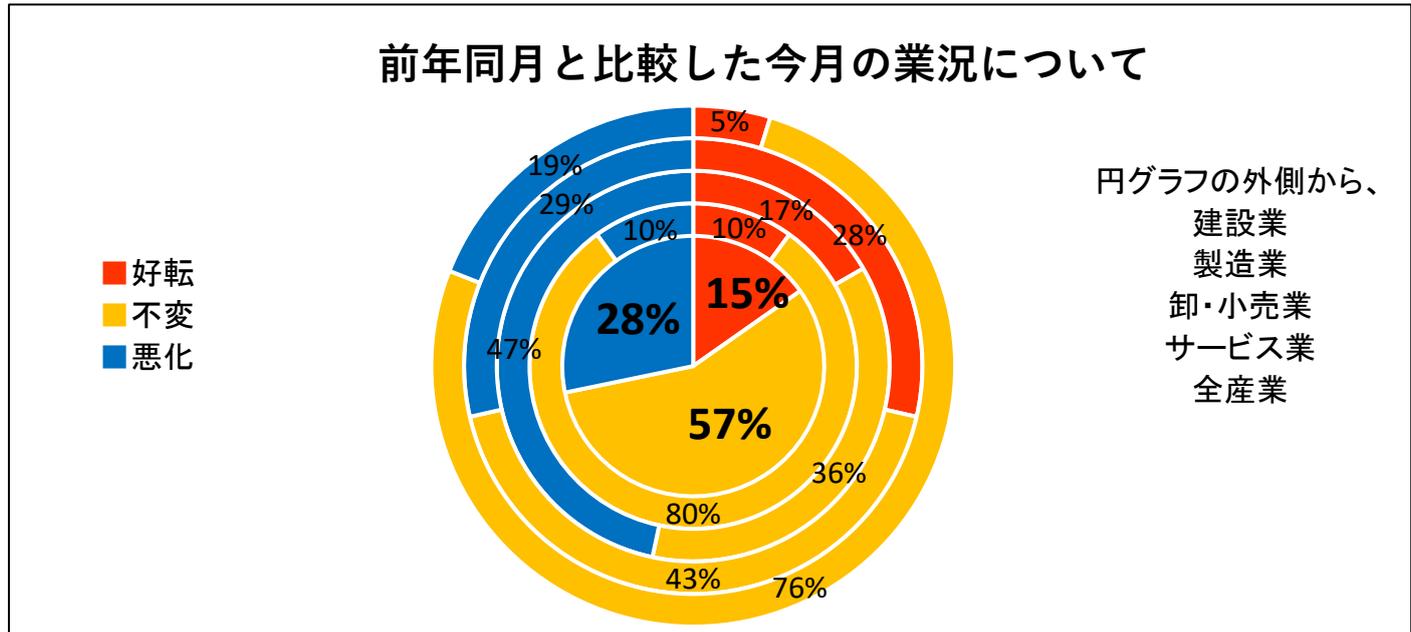
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲ 6.2	▲ 17.0	▲ 9.2	▲ 11.0	▲ 13.8	△ 11.9
6月	▲ 8.9	▲ 17.8	▲ 8.8	▲ 13.2	▲ 16.7	△ 4.7
7月	▲ 9.8	▲ 19.2	▲ 4.1	▲ 20.9	▲ 18.5	△ 2.4
8月	▲ 8.9	▲ 18.8	▲ 5.6	▲ 22.6	▲ 12.7	△ 3.4
9月	▲ 9.0	▲ 16.5	▲ 8.5	▲ 19.7	▲ 9.2	△ 0.2
10月	▲ 10.5	▲ 14.3	▲ 9.3	▲ 20.6	▲ 16.0	△ 0.0
見通し	▲ 14.6	▲ 13.1	▲ 14.8	▲ 20.2	▲ 19.2	▲ 9.0

令和5年（2023年）10月の動向

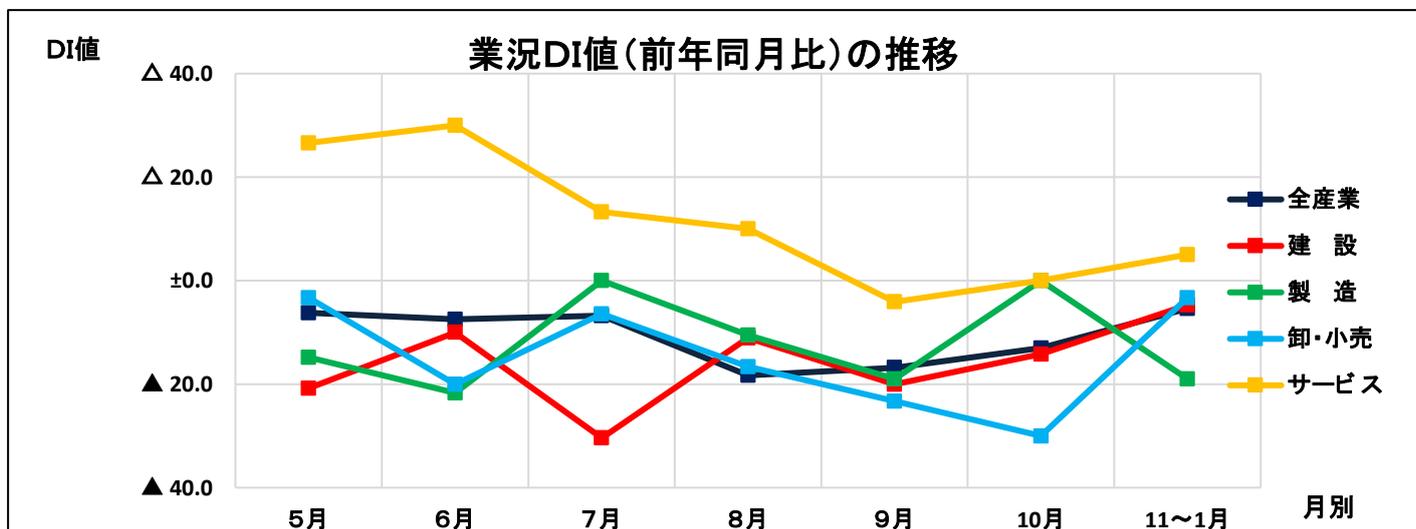
【業況について】

- 10月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲13.0（前月水準▲16.8）となり、マイナス幅が3.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、▲5.4（前月水準▲12.6）となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小した。



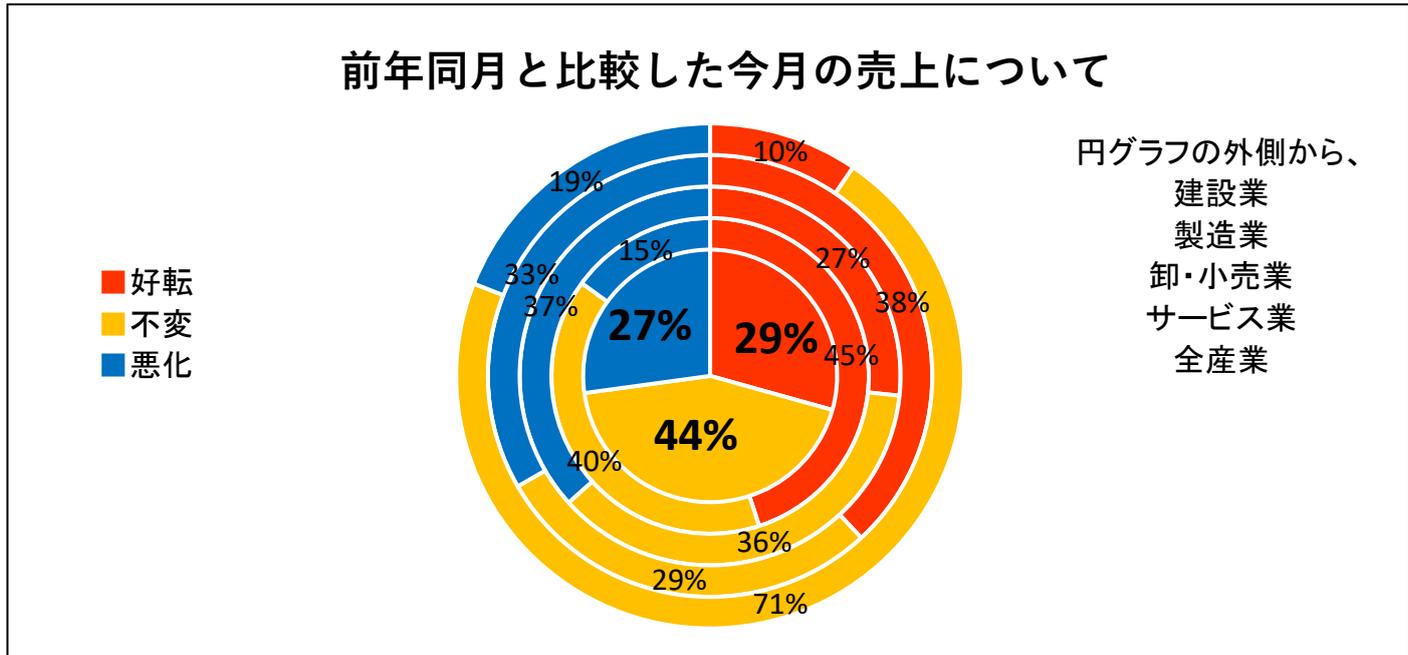
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月（10~12月）
全産業	▲6.2	▲7.5	▲6.8	▲18.3	▲16.8	▲13.0	▲5.4（▲12.6）
建設	▲20.8	▲10.0	▲30.4	▲11.1	▲20.0	▲14.2	▲4.7（▲5.0）
製造	▲14.8	▲21.7	±0.0	▲10.5	▲19.0	±0.0	▲19.0（▲14.2）
卸・小売	▲3.3	▲20.0	▲6.4	▲16.6	▲23.3	▲30.0	▲3.3（▲30.0）
サービス	△26.6	△30.0	△13.3	△10.0	▲4.1	±0.0	△5.0（△4.1）



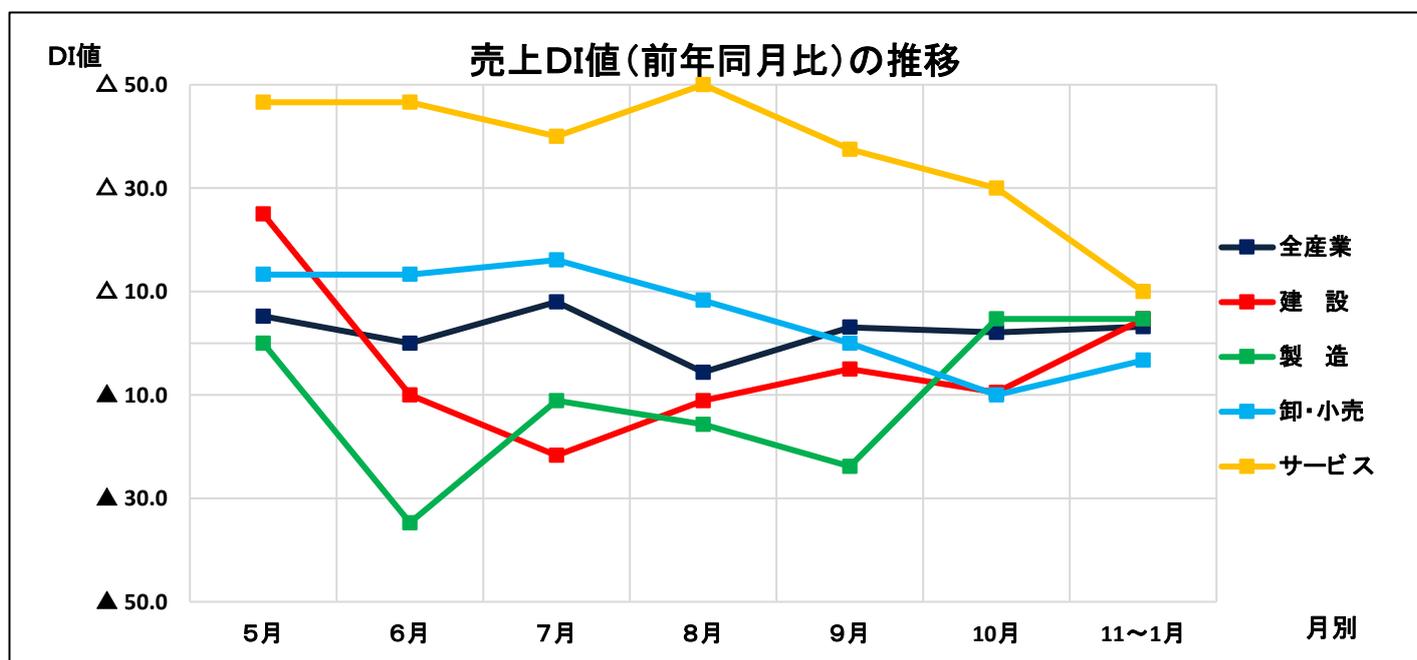
【売上について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.1(前月水準△3.1)となり、プラス幅が1.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△3.2(前月水準△1.0)となり、プラス幅が2.2ポイント拡大した。



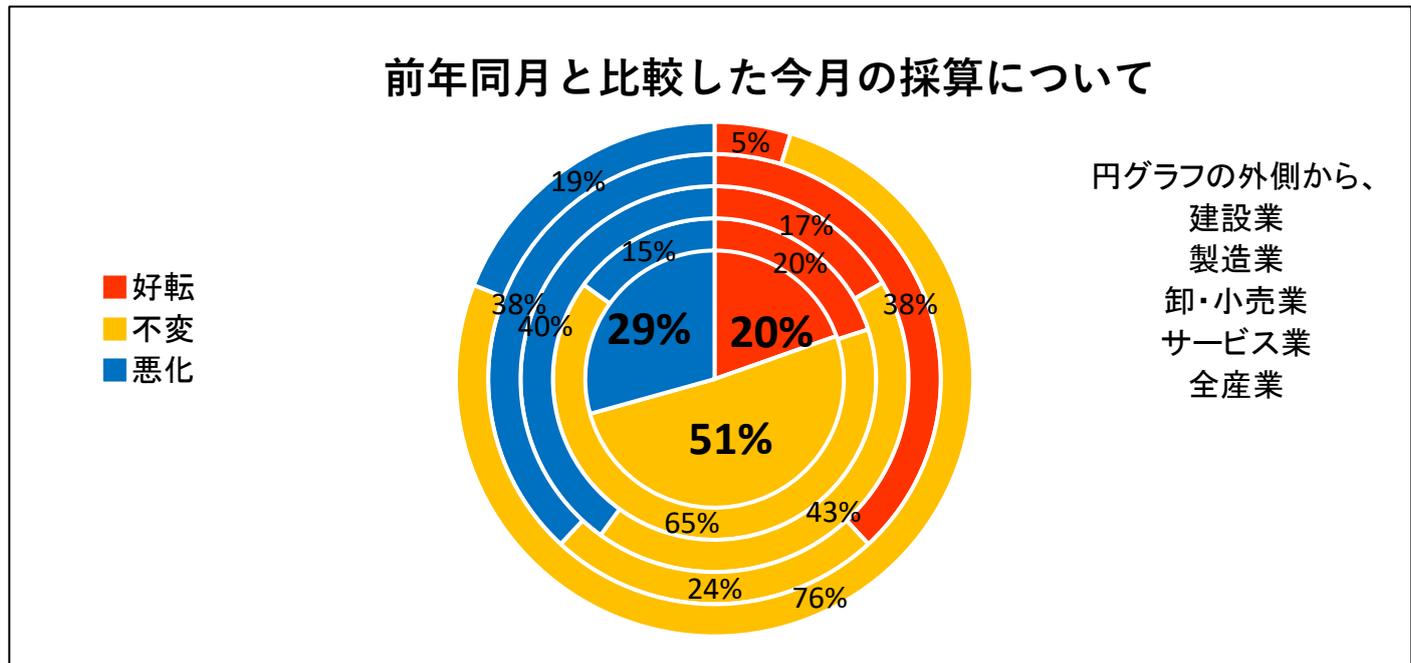
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)
全産業	△5.2	±0.0	△8.0	▲5.6	△3.1	△2.1	△3.2 (△1.0)
建設	△25.0	▲10.0	▲21.7	▲11.1	▲5.0	▲9.5	△4.7 (△5.0)
製造	±0.0	▲34.7	▲11.1	▲15.7	▲23.8	△4.7	△4.7 (▲4.7)
卸・小売	△13.3	△13.3	△16.1	△8.3	±0.0	▲10.0	▲3.3 (▲10.0)
サービス	△46.6	△46.6	△40.0	△50.0	△37.5	△30.0	△10.0 (△16.6)



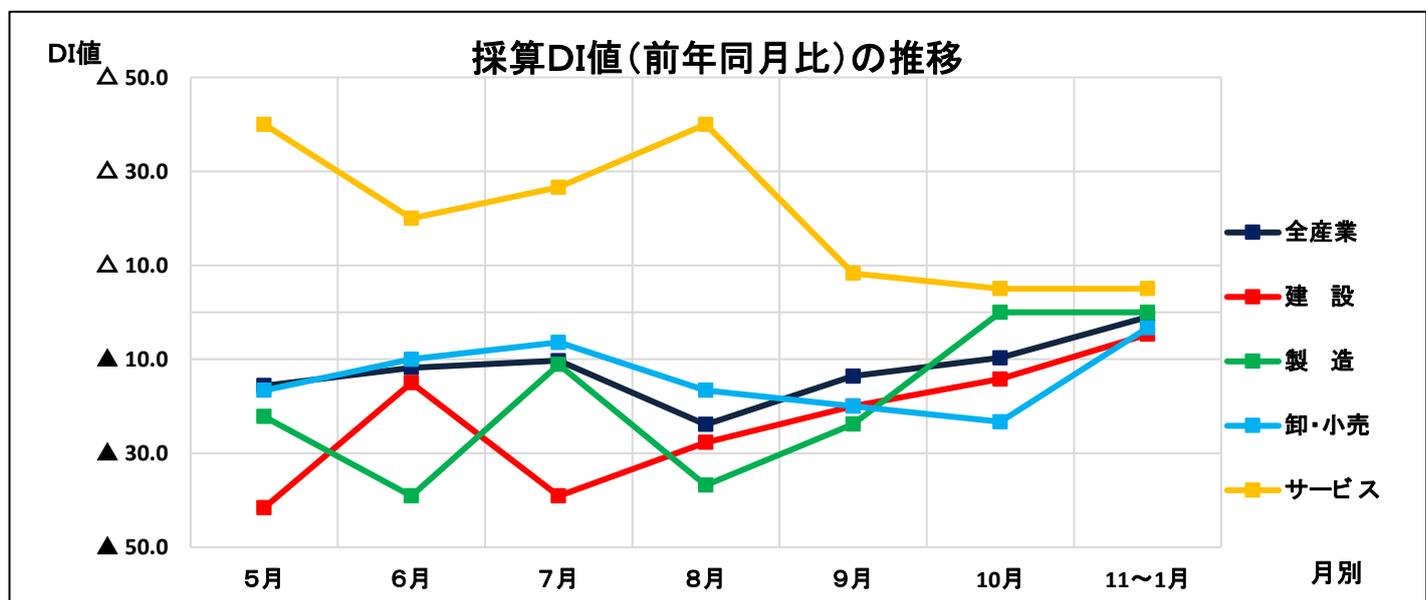
【採算について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.7(前月水準▲13.6)となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.0(前月水準▲14.7)であり、マイナス幅が13.7ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

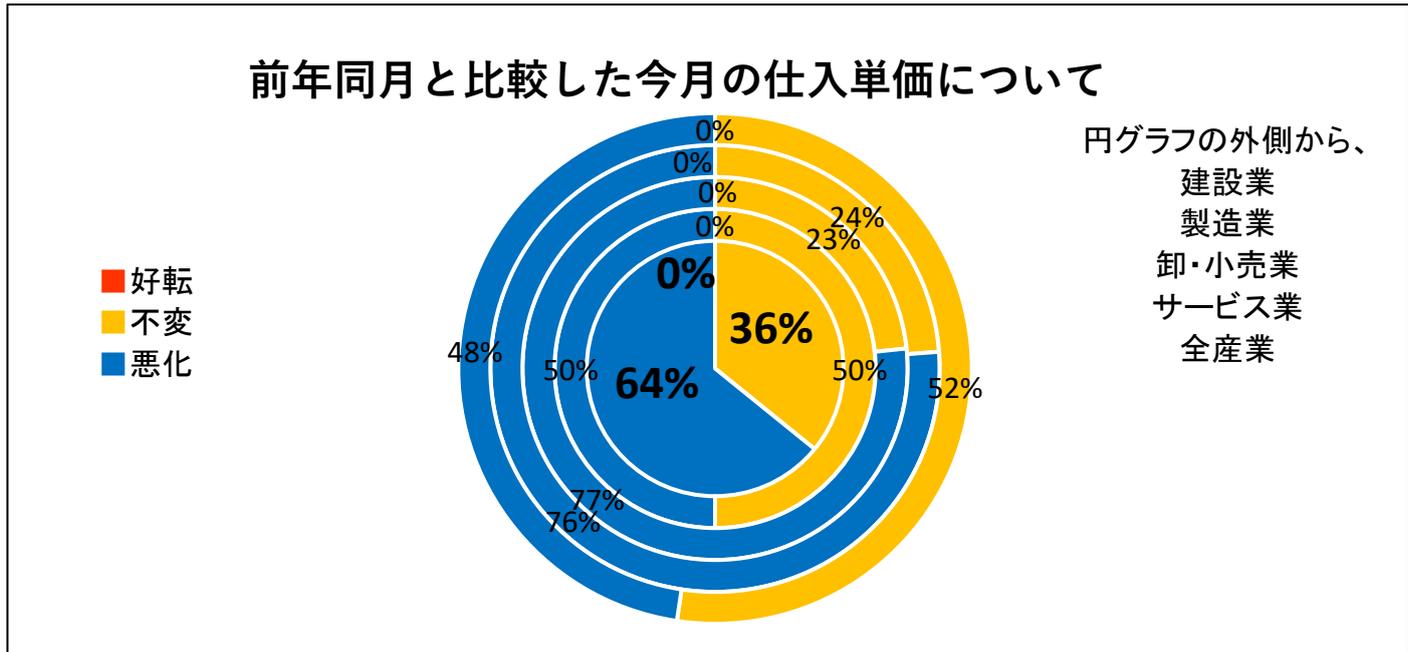
	令和5年						先行き見通し
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)
全産業	▲15.6	▲11.8	▲10.3	▲23.9	▲13.6	▲9.7	▲1.0 (▲14.7)
建設	▲41.6	▲15.0	▲39.1	▲27.7	▲20.0	▲14.2	▲4.7 (▲10.0)
製造	▲22.2	▲39.1	▲11.1	▲36.8	▲23.8	±0.0	±0.0 (▲19.0)
卸・小売	▲16.6	▲10.0	▲6.4	▲16.6	▲20.0	▲23.3	▲3.3 (▲30.0)
サービス	△40.0	△20.0	△26.6	△40.0	△8.3	△5.0	△5.0 (△4.1)



【仕入単価について】

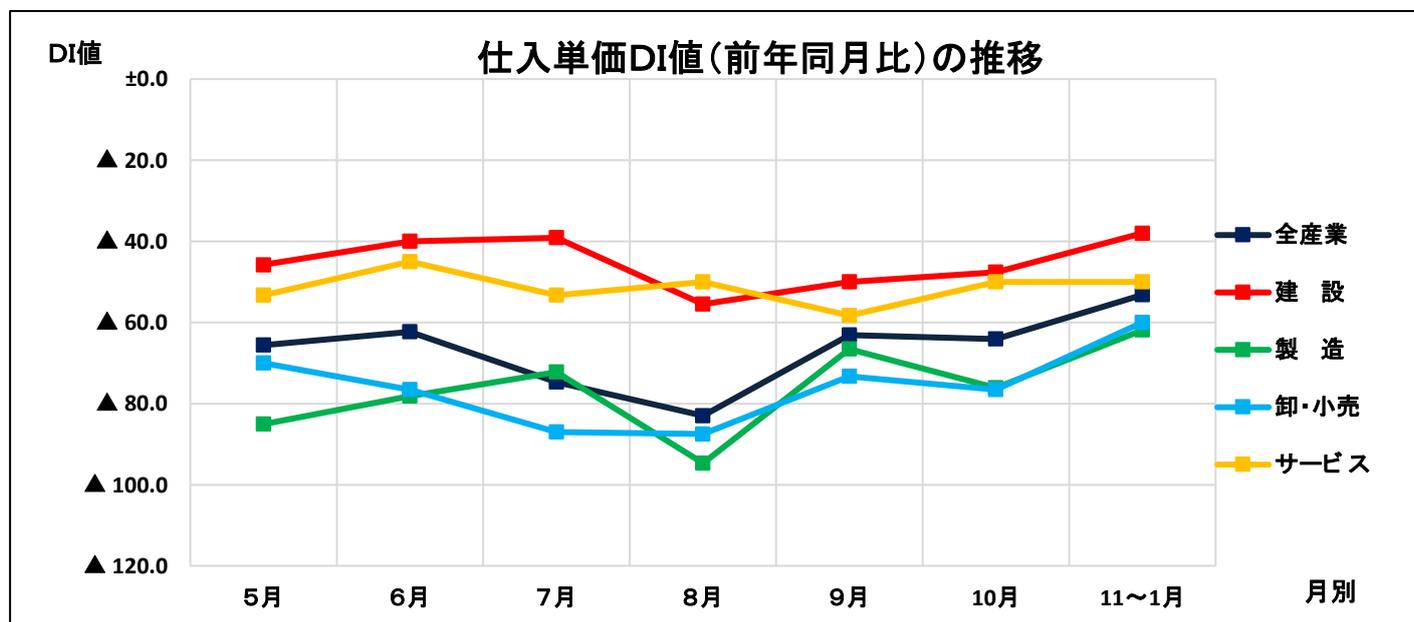
○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.1(前月水準▲63.1)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.2(前月水準▲60.0)となり、マイナス幅が6.8ポイント縮小する見通しである。



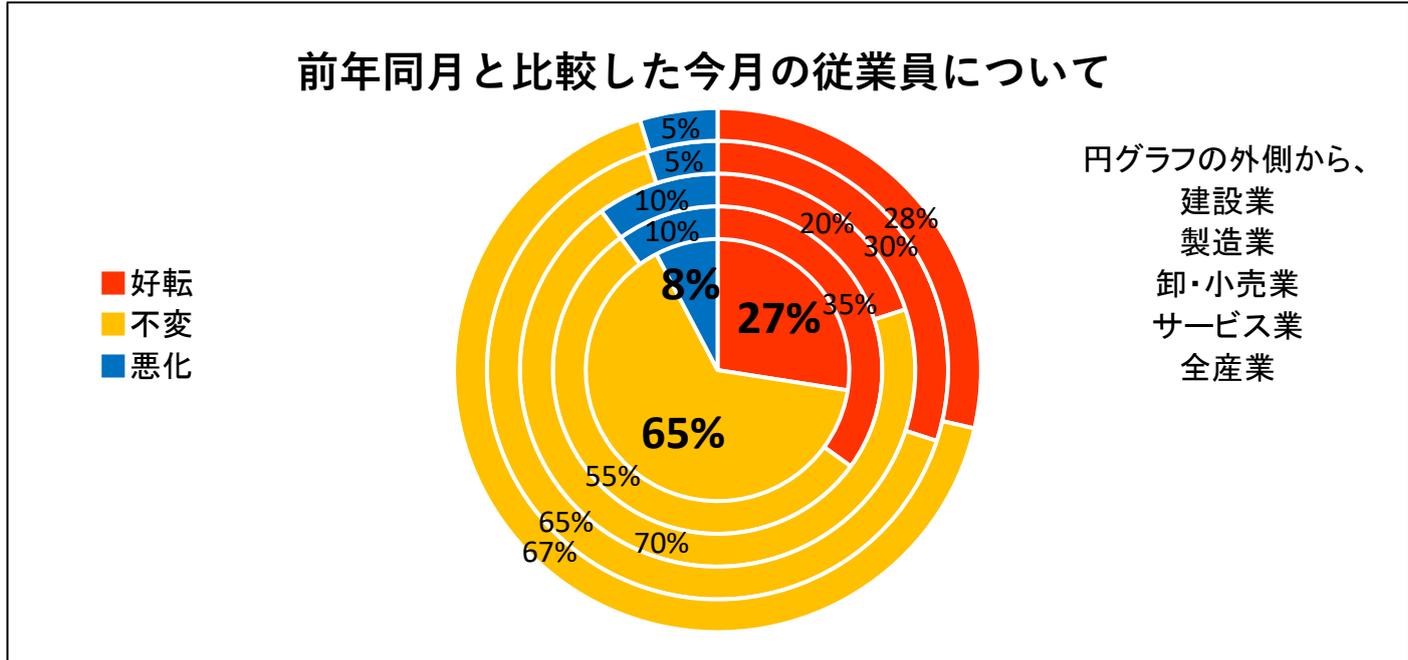
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)
全産業	▲65.6	▲62.3	▲74.7	▲83.0	▲63.1	▲64.1	▲53.2 (▲60.0)
建設	▲45.8	▲40.0	▲39.1	▲55.5	▲50.0	▲47.6	▲38.0 (▲40.0)
製造	▲85.1	▲78.2	▲72.2	▲94.7	▲66.6	▲76.1	▲61.9 (▲71.4)
卸・小売	▲70.0	▲76.6	▲87.0	▲87.5	▲73.3	▲76.6	▲60.0 (▲70.0)
サービス	▲53.3	▲45.0	▲53.3	▲50.0	▲58.3	▲50.0	▲50.0 (▲54.1)



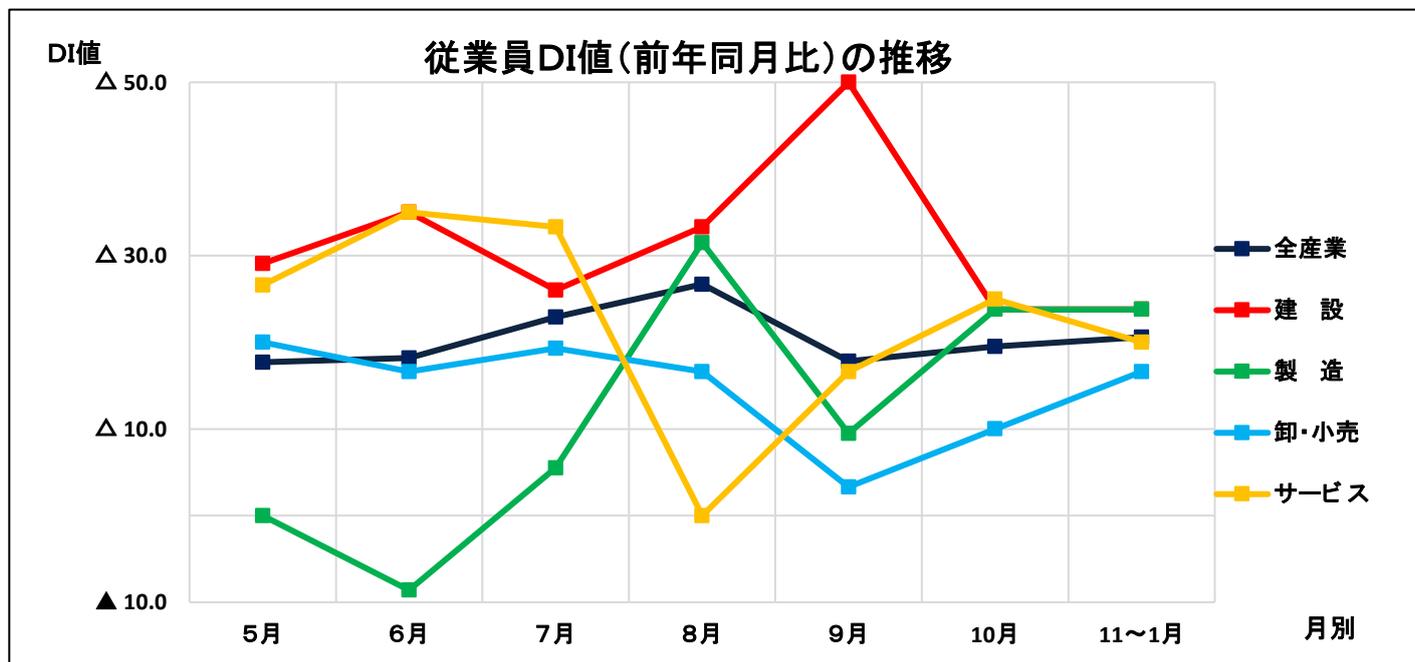
【従業員について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△19.5(前月水準△17.8)となり、プラス幅が1.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.6(前月水準△24.2)となり、プラス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。



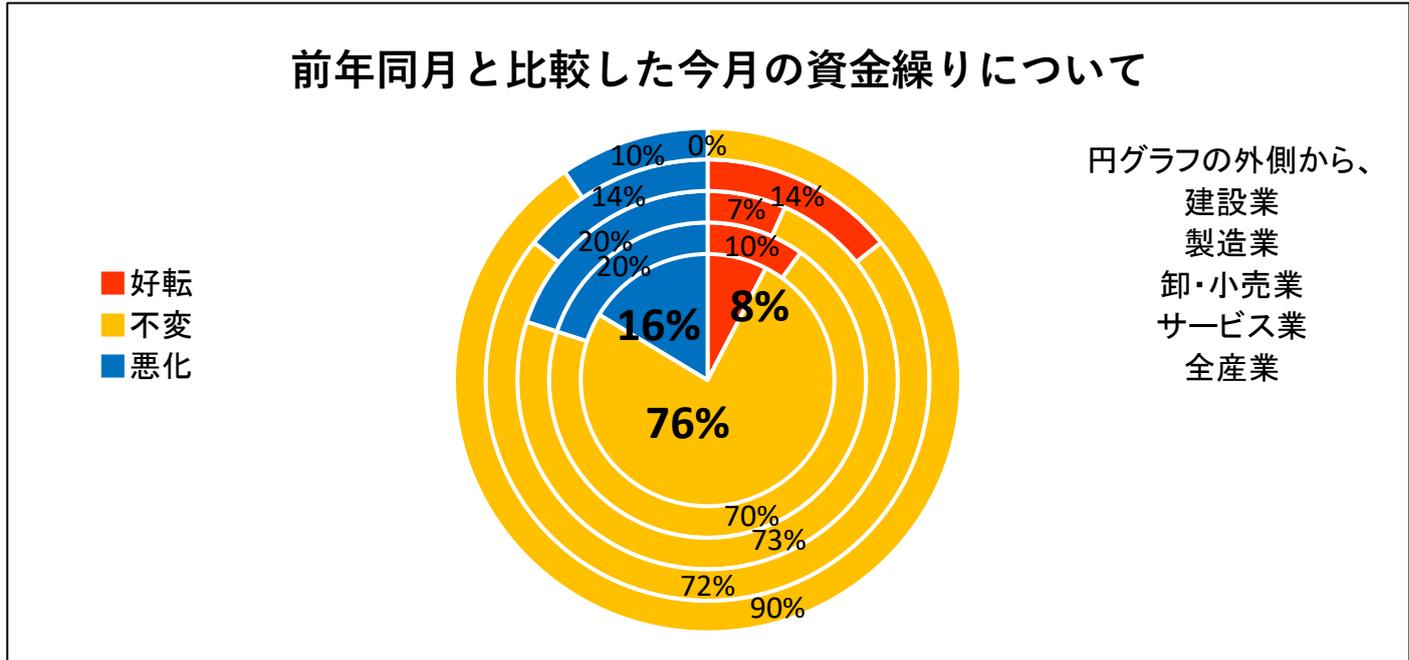
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和5年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し
								11~1月 (10~12月)
全産業	△17.7	△18.2	△22.9	△26.7	△17.8	△19.5	△20.6	(△24.2)
建設	△29.1	△35.0	△26.0	△33.3	△50.0	△23.8	△23.8	(△45.0)
製造	±0.0	▲8.6	△5.5	△31.5	△9.5	△23.8	△23.8	(△19.0)
卸・小売	△20.0	△16.6	△19.3	△16.6	△3.3	△10.0	△16.6	(△16.6)
サービス	△26.6	△35.0	△33.3	±0.0	△16.6	△25.0	△20.0	(△20.8)



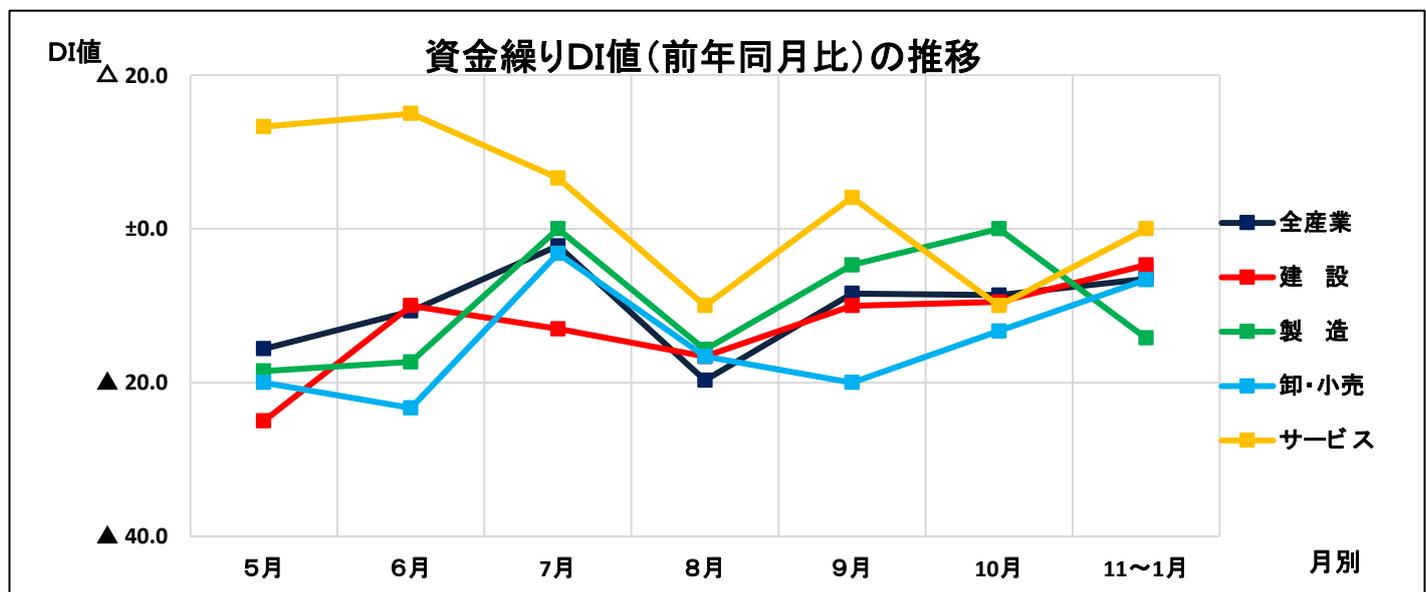
【資金繰りについて】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.6(前月水準▲8.4)となり、マイナス幅が0.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.5(前月水準▲6.3)となり、マイナス幅が0.2ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し
								11~1月 (10~12月)
全産業	▲15.6	▲10.7	▲2.2	▲19.7	▲8.4	▲8.6	▲6.5 (▲6.3)	
建設	▲25.0	▲10.0	▲13.0	▲16.6	▲10.0	▲9.5	▲4.7 (±0.0)	
製造	▲18.5	▲17.3	±0.0	▲15.7	▲4.7	±0.0	▲14.2 (▲4.7)	
卸・小売	▲20.0	▲23.3	▲3.2	▲16.6	▲20.0	▲13.3	▲6.6 (▲20.0)	
サービス	△13.3	△15.0	△6.6	▲10.0	△4.1	▲10.0	±0.0 (△4.1)	

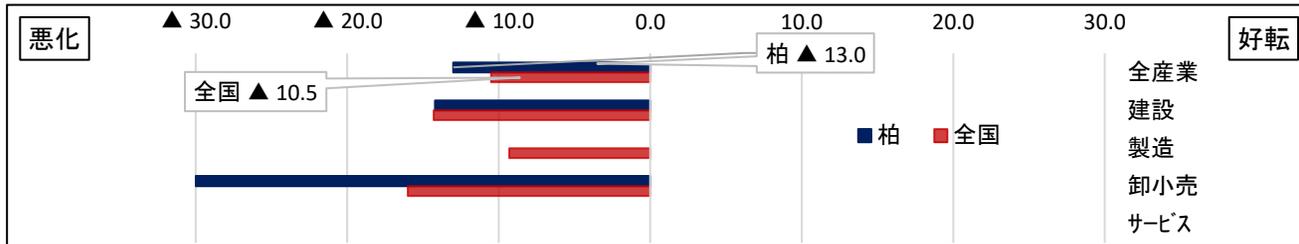


全国（CCI-LOBO）との比較

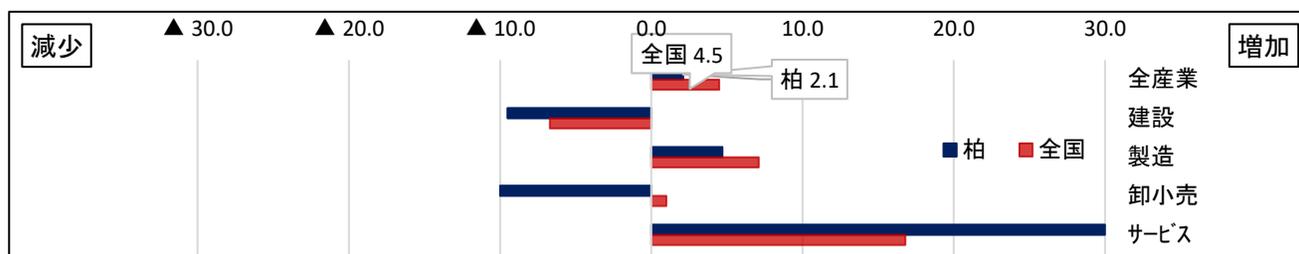
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

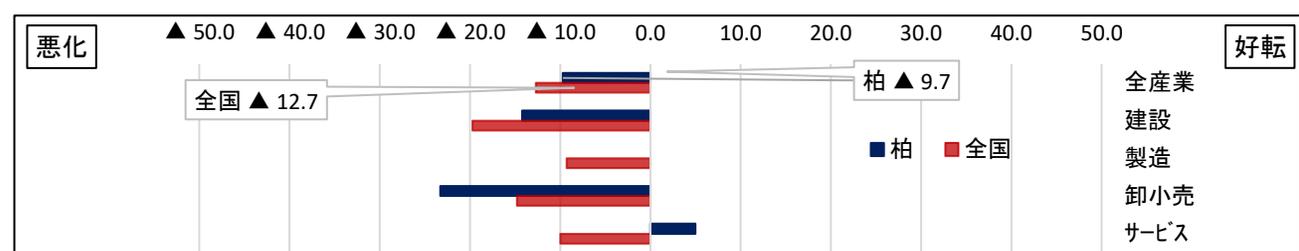
【業況D I】



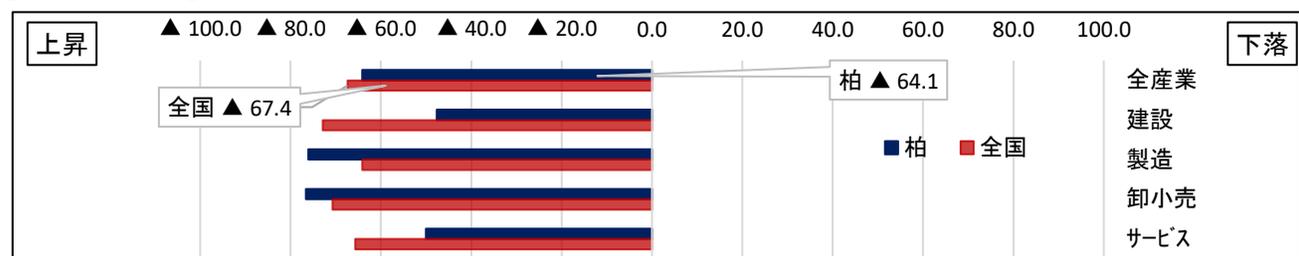
【売上D I】



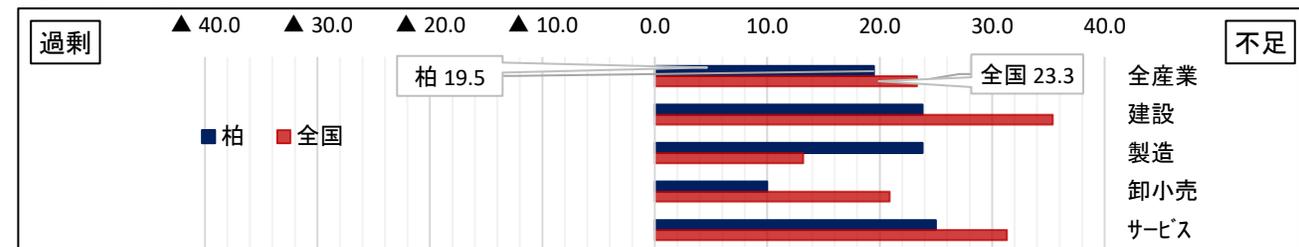
【採算D I】



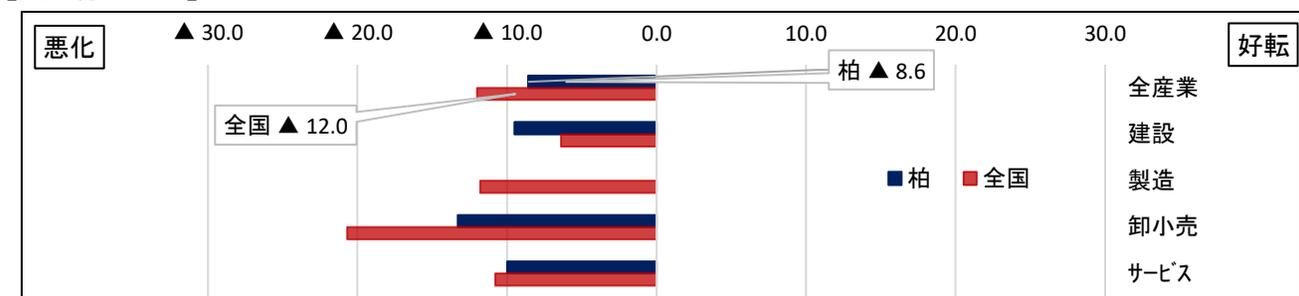
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	年末に向けて畳工事の受注増加。	畳工事請負・畳製造販売業
	弊社の20年勤務していたベテラン社員が定年退職してしまったため、更に人手不足になってしまったことが今後非常に厳しくなりそう	塗装工事業
	人手不足+最低賃金の引き上げで、スキルが十分でない人材をこれまで以上の賃金で採用せざるを得ない状況が悩まれる	板金工事業
	受注件数は微増してきたが、人手不足のうえ指定される納期も短く、対応が出来ず断るケースも出てきている	電気設備工事業
	中東情勢の緊迫化により、今後ますますトラックや重機等の燃料代が高騰する可能性もあると思う	管工事業
製造業	化粧品容器受注は相変わらず勢いがいい。医療費容器に関しては新規クライアントからの要請等、前向きな案件はあるが具現化するかはわからない	プラスチック加工
	コロナウイルスの影響で客先との打ち合わせが出来なくなり止まっていた設備投資の話が最近順調に進んでいる。ただし非常に納期のかかる部品があり、完成・納入が遅れる装置が発生している	一般産業用機械・装置製造業
	受注は好調であるが原材料費の価格高騰、購入品の価格高騰、円安によりコスト押し上げ傾向にある	その他の機械・同部品製造業
	受注減が続いている。利益確保のため仕入を抑えることが必須である。社内での技術継承は今後会社が存続していくうえで大切な問題だ。真摯に取り組んでいかねばならない	金属製品
	従業員の高齢化に伴い、引継ぎも含め、人員を補充している為、人件費等が高騰しています	その他の金属製品製造業
	夏からのイベント等で印刷売上が伸び、設備投資が出来た。しかし、この先の売上の上昇は難しいと予測される。まずは、人材育成に力を入れたい	印刷業
	・定例作業でのDX化を進めてワンランク上の作業に期待 ・主力製品はコロナ5種になり人の移動が緩和されてもコロナ前までの売り上げ伸びず厳しい状況 ・ユーザーは以前より在庫の管理を圧縮しており売り上げが伸びない状況	その他の鉄鋼業
	標準価格(定価)のあるメーカーの商材で、価格改定で値上げとなっているものはそのままスライドで価格転嫁が比較的容易だが、自社製品については標準価格がないため、材料費やエネルギー価格のコストアップ分の価格転嫁が難しい。 長い間、自社製品の価格アップを行っていなかった上に、幾度となく材料費やエネルギー価格の変動や上昇があるので、適正な原価計算も難しい状況にあり、発注側企業も値上げに対して戸惑いや抵抗がある	自動車付属品製造業

【業種別】 業界内トピックス

卸 ・ 小 売 業	インバウンドが若干増加の傾向が見られてきている。食品については価格高騰の影響を受け、目玉品に対しては敏感な動きがある。衣料品や寝具は気温が昨年より高い状況が続いているため秋冬商品の動きが悪い	大型小売店
	仕入・売値の高止まりを感じる。年末に向けて購買意欲の上昇を期待	その他の各種商品小売業
	例年と比べ気温が高い影響もあり、アパレルは若干苦戦も、食物販は回復傾向。サービス関連は好調続く	百貨店
	価格高騰による買い控えとして嗜好品であるケーキは、影響が大きい	洋菓子店
	正直「不明」の部分が多い。主事業である海苔の販売についてはこれから冬の仕入れのシーズンになるが原料がとれるのか、価格は安定するのかさっぱりわからない。それにより弊社から卸先への販売価格や供給量も変わるがスムーズにいくかはわからない。今年あまりに原料が高すぎたので韓国からの輸入に頼ったがまた同じことになる可能性もある	食料卸売業
	クリスマスをひかえ乳製品の再値上げが痛い	洋菓子製造・販売店
サ ー ビ ス 業	物価高や燃料高騰、最低賃金の引上げ、さらにはインボイス、電子帳簿保存法、2024年問題、次から次へと頭が痛くなること目白押しで疲労困憊	飲食業
	原材料含めて価格高騰、最低賃金上昇などによる人件費の上昇が今後大きく影響を受ける可能性大	日本料理
	インボイス・電子帳簿保存法対応により事務量が増えている。仕入れや消耗品の価格上昇が続いていることに加え、最低賃金の上昇により、売上は増えても利益が減少する事態に陥っている	ゴルフ練習場
	円安による資材の高騰を懸念	不動産賃貸・管理業
	最低賃金の引き上げに伴って10月から時給を上げざるを得ないが、学習塾という性質上、新学年度の3月まで授業料を上げることが難しいことに加えて、11月からは推薦入試での早期合格者が抜けてしまうため、売り上げの落ち込みとのダブルパンチでかなり厳しい	学習塾
	インボイス制度が始まり、実際には開始前よりも開始後のほうが問い合わせが多かった。	税理士業
	業況としては再生可能エネルギー問題への対応や企業業績の好転に伴う地質調査などで好況傾向が予想される。	地質調査・地質コンサルタント

【業種別】 業界内トピックス

	<p>国内旅行の2~3か月先がシーズンオフのため、一時の勢いが感じられなし。振り子現象だと困る不安要素。その分、近場の台湾や韓国の海外旅行の受注が目立つようになってきたため今後に期待したい。</p> <p>人手不足は深刻であり、新卒の採用は厳しい。途中で中年の採用も視野に入れている</p>	<p>旅行</p>
	<p>為替の影響やコロナ禍後は外出が増えたことで、EC事業が伸びていない状況の中、消費者向けの運送会社（ヤマト運輸や佐川急便等）の運賃の値上げにより更にECの売上が落ち込んでいると感じる。</p> <p>流山と柏に倉庫が有るため、地域活性の取り組みとして、来年より柏市内のみの配達（お買い物代行等）を行う方向で協力会社と話しを進めている。</p> <p>Uber Eatsのようなもの（食品・飲料だけでなく何でも）を提供してみようと考えている</p>	<p>梱包業</p>

調査要領

回答期間

令和5年10月23日 ~ 令和5年11月5日

調査対象

柏市内178事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	178	92	51.7%
建設	43	21	48.8%
製造	42	21	50.0%
卸・小売	47	30	63.8%
サービス	46	20	43.5%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				